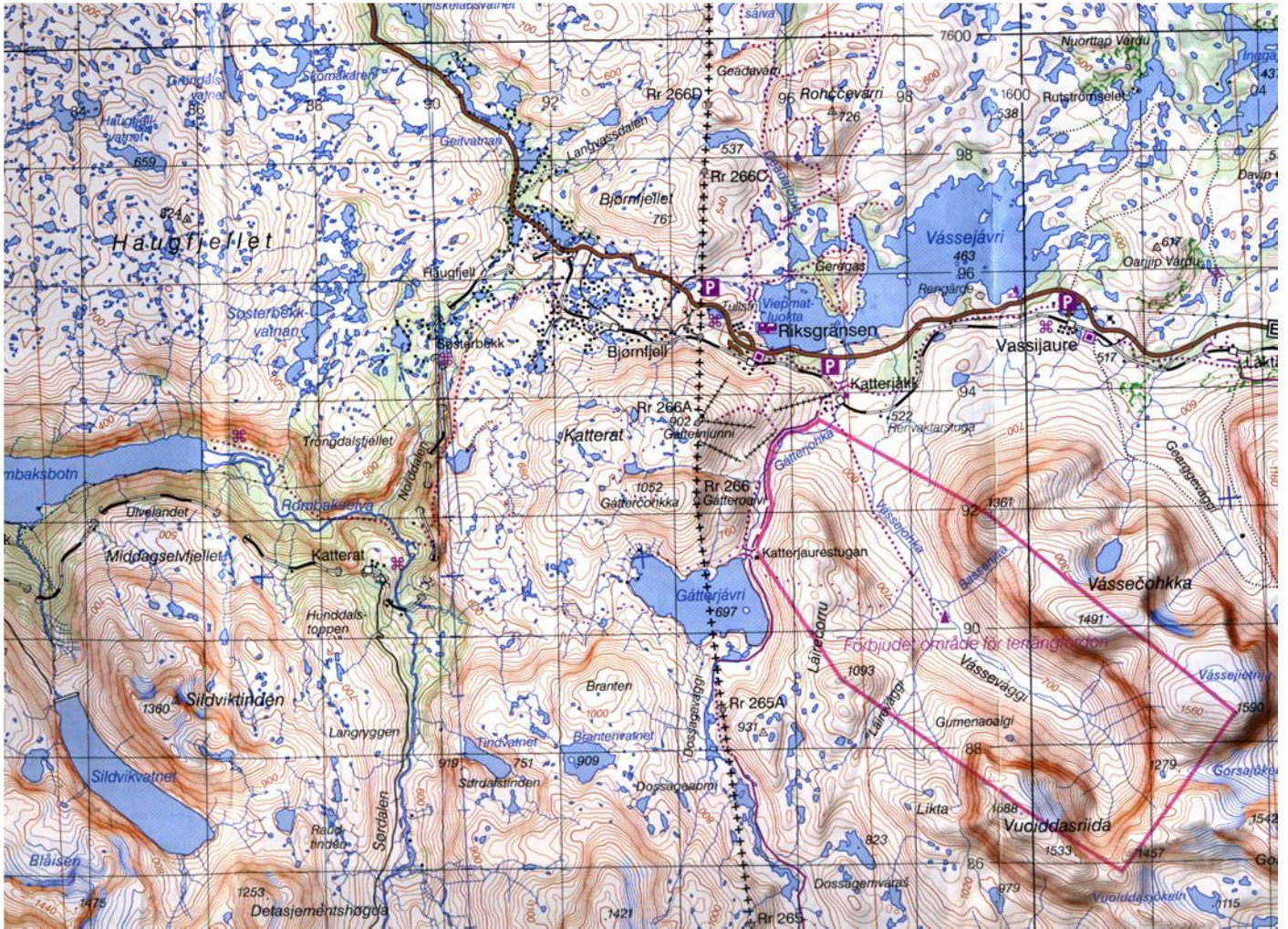


北極圏鉄道紀行 (5)

アビスコを出発した列車は、ノルウェーとの国境地帯を通過します。スウェーデン側で最後に停車するのは、リクスグレンセン (Riksgränsen) という駅です。“Riksgränsen” というのは、スウェーデン語で、そのまま「国境」という意味です。



上図は、スウェーデンとノルウェーの国境付近の地形図です。++++の記号が国境。右(東)がスウェーデン、左(西)がノルウェーです。岩石がむき出しの荒涼とした風景の中を、国道(E10号線)と鉄道が、苦勞しながら通っています。リクスグレンセンは、国境の駅であると同時にスキーリゾートとしても有名で、大きなホテルも建っています。



写真は **Vassejåure (ヴァッシュヤウレ) 駅** の駅舎です(上地図の右上の駅)。車内から撮影。急行列車は通過です。この駅には、上りルーレオゆき 11:28 発と、下りナルビクゆき 17:17 発の一往復しか停まりません。変電所を併設しているので、重要な駅です。国道から近く、冬でも暖房が効いているので、トイレ休憩にちょうど良く、何度か寄ったことがあります。リクスグレンセン駅よりわずかに北に位置し、スウェーデン最北の駅ということになります。



「夏のリクスグレンセン」 湖畔にコテージが並ぶリゾートです。



「冬のスウェーデン - ノルウェー国境」



列車でも車でも、国境を越える時に、特に検査やパスポートチェックのようなものはありません。北欧や西欧のほとんどの国は、一旦どこかの国で入国すると、あとはフリーパスなのです。国道には、一応国境のゲートがあつて、ノルウェーに入ったとわかりますが、鉄道の場合、国境を越えたという実感はまったくありません。

「国境地帯の荒涼とした風景」

(列車の車窓より撮影)



国境を越えると、ノルウェーのフィヨルドに向かって、急峻な山岳地帯を、標高を下げてゆきます。もうすぐ右車窓に、待望のフィヨルドが見えてきます。(つづく)

「ノルウェーの山岳地帯」

(列車の車窓より撮影)